

あたらしい学校の建設地場所別評価一覧 「地域みんなで育てる・大人も学ぶ【共学び・共育ちの村】」

実現性の評価			
	南牧南小学校敷地利用案	南牧中学校敷地周辺利用案	検討委員会での討議
建設費用について (別添資料①建設費試算表)	○造成費が軽微 ○用地取得費がかからない ○事前に文科省協議をすることで6年を目安に統合前整備と統合後整備の補助率は同じ	△造成費が必要 △用地取得費が必要 ○事前に文科省協議をすることで6年を目安に統合前整備と統合後整備の補助率は同じ	
事業期間について (別添資料②スケジュールイメージ)	○新規に学校敷地の取得がないため、用地交渉にかかる時間が不要。また、各種許認可にかかる時間も比較的短い	△用地交渉や林地開発、盛土規制等各種許認可にかかる時間が通常の事業期間よりも長くなる	
自然環境・教育環境	○ハケ岳を望む雄大なロケーション ○教育資源として豊富な自然環境 ○平坦で広い学校敷地 △突然の雷雨、濃霧、暴風（風速7 m以上）による保護者引き渡しがある △たい肥のにおい、野菜防除の飛散 ○探究学習の対象としての施設が多い（ヤツレン、野菜集出荷場、天文台、特別養護老人ホーム等）	○教育資源として豊富な自然環境 △高低差があり学校敷地が狭い ○相対的に天候に伴う保護者引き渡しがなく負担を減らせる ○におい・野菜防除に伴う影響が少ない ○探究学習の対象としての施設が多い（役場、社会福祉協議会、郵便局、公民館等）	
教職員確保について	△市場坂が村外の人にとって通勤の障害となりやすい △経験豊富な教職員が集まりにくい △経験が浅い（若手）が配置されやすい △突発的な欠員を補う人材確保が困難	○市場坂を通らずに村外在住の教職員が通勤できる ○経験豊富な教職員を配置しやすい ○若手、ベテランの教職員がバランスよく配置できる	
部活動について (別添資料③地域スポーツクラブ)	△JR線を利用した地域クラブがしにくい △地域スポーツクラブの拠点に再編成するのは難しい △厳しい自然環境のため、屋外活動の制限期間が比較的多い	○JR線を利用した地域クラブがしやすい ○南佐久広域で連携し、地域スポーツクラブに拠点になる ○山間の穏やかな気候から、屋外活動の制限が比較的小さい	
特別支援教育について (特別な支援が必要な児童生徒の学びの場について) (別添資料④)	○特別支援学級（※1）設置可能 △通級指導教室（※2）の南佐久地域全体の連携がしにくい	○特別支援学級（※1）設置可能 ○通級指導教室（※2）の南佐久地域全体の連携がしやすい	
不登校対応（中間教室）（別添資料④）	△中間教室との連携がしにくい	○中間教室との連携がしやすい	
通学について	△全村バス通学 ○最大通学時間が南牧中敷地周辺利用案より短い	△全村バス通学 △平沢からの通学時間が長い（30分程度）	
地域拠点の機能について（別添資料⑤）	○住民向け運動施設や会議室、図書館利用が可能。 △敷地が四方に開放されている為、さらなるセキュリティ確保の配慮が必要。 △電車を利用した施設利用がしにくい	○住民向け運動施設や会議室、図書館利用が可能。 ○セキュリティ確保のための導線確保がしやすい。 ○海ノ口駅から徒歩での利用がしやすい ○駅から徒歩圏内なので佐久市に通う高校生の学習拠点にも活用できる ○地域（海尻・海ノ口・森下・大芝）の防災拠点としての役割も担える。	

評価基準 ○：優れている △：課題がある

特別支援学級（※1）とは、学校において特別な支援を必要とする児童、生徒のために設置されている学級です。一人ひとりの特性に応じた学習をする場で、安心して学べる環境や自分のペースで学べる体制を整えています。

通級指導教室（※2）とは、通常学級に在籍する児童、生徒で学習面や生活面において、特定の困り感をもつ児童、生徒が週に1～2時間程度、通級指導教室設置校（佐久穂中・北小）へ通級し、指導を受ける教室です。ことばの教室（小学校のみ）とまなびの教室があります。